

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4072900352		
法人名	社会福祉法人 長生会		
事業所名	グループホーム まつぎきの宿		
所在地	小郡市松崎字福泉塚476-1 (電話) 0942-723-5500		
評価機関名	福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成19年3月29日	評価確定日	平成19年6月20日

【情報提供票より】(平成19年3月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年9月2日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤18人, 非常勤6人, 常勤換算21人	

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000 円	
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要(平成19年2月22日現在)

利用者人数	16名	男性	5名	女性	11名
要介護1	5名	要介護2	10名		
要介護3	1名	要介護4	0名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	73歳	最高	93.5歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	協和病院・富安医院・二宮医院・ヨシタケ脳神経外科・立山歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周りは散歩に適した自然に恵まれており、ホールや居室からの眺めもよい。ガラス張りの玄関は開放的で気軽に立ち寄りやすく、敷地が広く庭先での食事が楽しめる。内部は明るく木のぬくもりを感じられ落ち着いた雰囲気があり、めだかや亀が水槽に泳ぎ、心を和ませてくれる。利用者の生活に配慮し、全職員のケアサービス向上の熱意が伺われる。各居室入口には飾り棚とポストを設置して、毎月職員からの手紙が受け取れようになっている。全職員は「私たちは皆様の人格を尊重し、健康で明るく楽しい生活が出来るよう努めます」との理念を念頭に支援している。また、様々な地域行事に積極的に参加し、開放された安心して過ごせる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題への取り組みとして、利用者が自治会に加入して地域のイベントに参加し、衛生管理や注意の必要な物品の管理については具体的なマニュアルを作成し、相談・苦情箱を設置する等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価及び外部評価について、運営者・代表者・管理者・職員共に評価の意義を理解している。自己評価は全職員で話し合い、作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を実施している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。委員の意見で家族会を結成する等、運営や介護の質の向上に活かすように取り組んでいる。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>家族の意見をもとに介護計画の見直しを行っている。金銭の取り扱いでは利用者個人毎にまとめてファイルし、毎月書面での報告、領収書も渡している。事業所には苦情相談箱を設置している。利用者、家族の意見や苦情窓口の紹介を事業所内だけでなく、外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の自治会加入、地域イベントの参加、ボランティアの受け入れ等、地域との交流がある。今後ますます地域との支え合う関係が深まり、利用者の豊かな生活の支援を目指してほしい。</p>

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自で「人格を尊重し、健康で明るく楽しい生活が出来るように努める」と、利用者・家族・職員にわかりやすい理念をつくりあげている。	○	平成18年介護保険制度改正により地域密着型サービスが創設されたことから、事業所と地域の関係性強化を理念に加えたら、更に良いのではないかな。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝夕の申し送りや週1回、月2回のパートも含めたミーティング時に理念を確認し、理念を念頭において日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老入会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域行事への参加や近隣高校生のボランティアを受け入れている。また地元の人々には盆踊り大会参加のための踊りを教わる等、積極的に交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者・代表者・管理者・職員共に評価の意義を理解している。自己評価は全職員で話し合い、作成している。また、前回評価結果を基に全職員で改善に向けての話し合い、相談・苦情箱を設置する等、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を実施している。現在の取り組み状況や今後の活動計画等を報告し、委員からの意見・要望・質問等をもらっている。委員の意見で家族会を結成する等、運営や介護の質の向上に活かすように取り組んでいる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の実情等、折に触れ積極的に話すよう努めている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用者がおり、全職員は月1回の司法書士の面会時に疑問点等を尋ね、制度に関して理解を深めている。権利擁護に関する資料をファイル化し、いつでも全職員が確認できるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	定期的に行事風景の写真や予定、金銭収支状況を書面で報告している。金銭については、月毎の出費、領収書コピーを渡し、また年度末には領収書元本を渡している。健康の変化はその都度報告し、毎日のチェック表やサービス計画表を必要に応じて面会時や郵送で報告している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者家族から介護計画についての要望等を引き出し、配慮している。家族等の意見及び苦情窓口は書面で明示し、また苦情箱を設置している。	○	苦情受付窓口は、事業所だけでなく外部機関も含めて幅広く家族等へ説明してほしい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	代表者及び管理者は、利用者に対して馴染みの職員による支援を重要と考えているが、やむを得ない異動では、新しい職員が馴れるまで前任者がカバーする等、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。全職員が能力を発揮してどの職場でも働けるよう、職員の育成にも配慮している。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権教育は全職員が受講している。また、研修受講後はミーティングで研修報告を行っている。研修報告書を作成し、職員の確認のサインが確認できた。人権に関する書籍は、ユニット毎に揃えている。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の段階に応じて外部研修を順番に受講して、研修を受ける機会の確保に努めている。また、認知症等の資料の回覧や月例ミーティングでの学習をしている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所への見学及び交流する機会を積極的に持ち、サービスの質の向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族の見学の受け入れ、家庭への訪問説明、3泊以上の宿泊体験等、場の雰囲気に徐々に馴染めるように、家族等と相談しながら工夫している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員はラッキョウ漬け等の漬物、着付け、生け花、御茶等習ったり、竹で箸作り、器作り、棚作り等の大工仕事、水鉄砲作り等を一緒にする等して本人から学んだり、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦、趣味などの基礎資料や言葉・表情・動き等で気持ちの把握に努め、外出や買い物等、意向に沿って支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向、月例ミーティング、担当者以外の全職員の意見等をもとに担当者が介護計画を立て、計画作成担当者のチェックで介護計画を作成している。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月毎の見直しだが、状況の変化に応じて、また利用者や家族の新たな要望時に随時見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院時には家族及び医療機関と協議し、早期退院に向けて連携を図っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望により、かかりつけ医または協力医師の適切な医療を受けられるように支援している。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	日頃から重度化についての家族の意思確認しており、事業所が対応できる最大のケアについての説明を行っている。家族等及び医師と連携して、全員で終末期のケアの方針を共有して支援している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを傷つけない介護を心がけ、学習会も行っている。言葉かけ、トイレ誘導、記録等にも利用者のプライバシーや誇りを傷つけない対応をしている。また、訪問理・美容師等、外部者への個人情報に関する誓約書がある。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。入浴や散歩、居室での食事など、利用者の希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は栄養士が作成するが、利用者の意向を聞き、柔軟に対応している。利用者と職員は、下ごしらえや配膳、御茶入れなど共にしている。食事については、一部弁当持参の職員が見受けられる。	○	事業所の特性から共に同じ物を同じ食卓で食事を楽しむ事は大切である。利用者と一緒に食事を楽しめる環境づくりを検討してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	いつでも希望時に対応できるように支援している。しかし、入浴拒否する人にはタイミングをはかる等工夫しているが、数日間入浴できない時は、清拭で対応することもある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑作業、花植え、挿し木、多様なイベント等、利用者のできることや得意なことを把握し、楽しみごとも含めて一人ひとりに支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者は1日1回は庭に出たり、散歩、近所の友人宅訪問、お菓子や衣服などの買い物等をし、また定期的に花見や食事会、弁当持参でのドライブ等、一人ひとりのその日の希望にそって、多様に支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、施錠していない。全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。職員は利用者の外出傾向等を把握しており、見守り等行っている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携して年1回避難訓練を行い、その記録がある。全職員は消火器使用方法等を熟知している。緊急時の体制については、細かく解りやすいマニュアルを作成している。	○	今後はいざという時のために事業所だけの訓練ではなく、地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練等を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者個人毎のバイタル、生活状態のチェック表に、栄養摂取状況の記録がある。水分摂取については食事、おやつ時のお茶等で、一日必要量を判断しており、不足の場合はプリン、ゼリー等で補足している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有のフロアは明るく、空気のとどみはなく、乾湿度計により調節している。一段高めに畳敷には雑壇が飾られ、家具やキッチン等家庭的である。また、めだかや亀が水槽に泳ぎ、心癒されるものとなっている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはクローゼット、洗面台、トイレを設置している。ベッドを始め椅子、カーペット、時計、筆筒、テレビ等、馴染みの持ち込みがある。壁には手製のカレンダーや絵を飾り、本人が居心地のよく過ごせる空間となっている。また、居室の入口にはそれぞれ手紙が受け取れるようポストを設置する等、工夫している。		

※ は、重点項目。